

腫瘍マーカーの有効性

腫瘍マーカーは、がん患者の有効性は示されており、治療経過を診る目的などで使用され保険適応もある、信頼できる検査です。

本来病気がない健常の人に健康診断目的で腫瘍マーカーを使用した場合には、がん以外の病状でも反応するために（偽）陽性が出ます。

検査が陽性になったときに本当のがんのある確率（陽性的中率）は、高い PSA（前立腺がん）で 8%前後、よく使用される CEA（大腸がん、胃がんなど）、CA199（消化器系がん）で 24%、それ以外は 2%未満です。

しかしながら少しでもがんが見つかる可能性がある点で検査には意味があると考えます。このように腫瘍マーカー検査が陽性であるだけでは、がんがあるとは必ずしも言えません。画像診断と併せて診断することが重要です。

また画像診断に問題がない場合には、時期を置いて必ず腫瘍マーカーを再検査して経過を診ることをお勧めしています。

いろいろ検査しても問題なく、腫瘍マーカーだけが少し高く、経過で不変もしくは低下する場合には、その後も経過観察すればよく、あまり過剰に心配する必要はないと考えます。検査が陰性の時に本当のがんが見つからない確率（陰性的中率）は 99.5%以上であり、検査が陰性とした場合にはほぼ安心できますが、年一回の健康診断はお勧めします。